

報告

第 82 回全国盲学校弁論大会

徳島県立盲学校 高等部 専攻科 鍼灸手技療法科 2 年 藤井 修身

1. はじめに

私は平成 25 年 10 月 4 日に宮城県仙台市で行われた第 82 回全国盲学校弁論大会に「ありのままの自分を生きる」という演題で出場する機会を得て参加させていただきました。この大会は昭和 3 年から始まり戦前の 3 年間は中止されましたが全国の盲学校生徒が弁論で競う大会として 82 回を迎えた歴史ある大会でした。

2. 参加のきっかけと弁論内容

私が弁論大会に参加することになったきっかけは、校内での中国四国地区予選を兼ねた弁論大会に順番として仕方なく参加したようなものでした。それで、いざ弁論内容となると、何にしようかと大変迷いました。迷ったあげく、自分の網膜色素変性症という目の難病のことを述べようと決めました。症状が進行した 50 歳過ぎに失明に怯え仕事のことや今後について悩んだこと。友人や同じ病気の仲間に支えられ障害を乗り越えられたこと。障害はその障害をありのままの自分のこととして認められない自分自身の心が問題だと気付いたこと。勇気を出して、ありのままの自分を打ち明け、皆に助けられながら頑張ってきたこと。60 歳を前にして新たな夢に向かって盲学校に入学し、あん摩鍼灸師として歩みだした私自身について述べようと決めました。

3. 気持ちの変化

校内予選で優勝し、中国四国地区大会に参加することになりました。この時に自分の弁論内容を振り返ると、私は本当にありのままの自分を認めて

いるのだろうかという疑問を持ちました。今でも身近な地域での白杖歩行や人通りの多い街中での手引きなどに戸惑いを持ったり、自分の障害を理由に困難から逃げている弱い自分があることに気付きました。しかし学校代表として中国四国地区弁論大会に出場する限りは、自分のありのままを多くの人の前で述べ、自分の弱さを克服したいという思いが芽生えました。中国四国地区弁論大会は自分の通う徳島県立盲学校で今年 6 月に開催されました。中国四国地区 9 県 9 名の弁士が心のこもった熱い弁論を行いました。そこで幸運にも私の弁論が最優秀として選ばれ全国大会に出場することになりました。

4. 全国大会

全国大会では全国 7 地区から選ばれた 9 名の弁士が出場しました。弁論大会では 40 歳代の 1 名を除き、他の弁士は 10 代の弁士で私の孫のような方々でした。しかし、弁論内容や当日の弁論は素晴らしく視覚障害を持ちながらそれぞれの悩みや心の葛藤そしてその解決方法などが熱く語られました。

優勝した弁士は、障害を乗り越えるためには笑顔



写真 1 弁論開始直前の緊張感

徳島県立盲学校

〒 770-8063 徳島市南二軒屋町 2-4-55

が必要「会場の皆さん いつ笑うのですか 今でしよ！」と笑いも誘う弁論でした。

私は弁論発表の途中で、障害を隠していた頃のやるせなさを思い出し、心が乱れ自分自身として満足のいく弁論にならなかったことが残念です。

しかし、全国から選ばれた仲間と一緒に壇上に立てたことは今後、ありのままの自分を認め自分らしく生きていく力となるような気がします。

盲学校や寄宿舎生活も残り1年半となりました。今後、皆様の応援で出場できた今回の全国盲学校弁論大会の貴重な体験を生かし、新たな人生として選択したあん摩、鍼灸の勉強を精一杯頑張りたいと思います。

そして、卒業後は学んだ知識や技術を地域の中で生かし、人に喜ばれ、人と支え合い生きていきたいと考えています。



写真2 弁論を終えて：表彰式後の記念撮影

5. 最後に

今、私は実際の視力や視野は徐々に低下していますが、心の視力や視野は全国大会での経験が強く広くしてくれました。



写真3 会場前にて